

「令和2年度特別支援教育センター研究成果報告会」

7月3日(土) 10:00~12:00、岐阜大学教育学部特別支援教育センターにおいて自主公開講座「令和2年度特別支援教育センター研究成果報告会」が開催されました。8名の参加者を得ました。

特別支援教育センター年報第28号に掲載されたセンター研究員の実践論文から、現在、愛知県立豊明高校で非常勤講師として勤務されている木村義子先生に、「高等学校における発達障害のある生徒への支援に関する考察－特別支援教育支援員の活用について－」を発表していただきました。

木村先生が、岐阜県立高等学校で教育相談、特別支援教育コーディネーターとして3年間かかわった、Aさん(高2で発達障害の診断を受ける)への学校全体での組織的支援の実践が報告されました。特に、高3のときにAさんを担当する特別支援教育支援員が支援チームに加わり、個別の支援が充実し、目標としていた2つの力(自己コントロール力、自己表現力)が育まれ、適切な進路支援と就労につながっていった実践が報告されました。参加者から、通常学級に在籍する児童生徒への支援の在り方についてモデルとなる実践であったという感想と共に、通常学級での継続的、組織的支援の難しさがあることや現場でのそれぞれの取り組みについての話題提供がありました。

岐阜県教育委員会課長補佐加藤健先生から、助言・コメントをいただき、学校全体での支援の取り組みの重要性と、個別の教育支援計画を持たず高校入学した後に支援が必要なが判明する事例が多いことの課題が話され、教員だけでなく周りの児童・生徒も巻き込んで、支援的状况をつくっていくことの重要性について教えていただきました。また、今回の木村先生の報告はモデルとなる事例であり、他の高等学校の現場の関係者にも広く伝えたい実践であるとのご講評をいただきました。

参加者による活発な意見の交流ができ、特別支援教育の実践面でのさらなる推進の方向について学び合うことができました。